


#### 4 果 樹

項 目	作 業 内 容																								
<p>(1) 温州ミカン園の冬期管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)            温州ミカン園の冬期管理            晩柑類の収穫・貯蔵            間・縮伐            土壌管理            越冬病虫害防除</p> <p>1 ヶ月予報では、平年に比べ気温の低い日が多く、降水量は平年並または少ないとされており (平成 24 年 1 月 20 日高松地方気象台発表)、果実の凍結や寒風害の発生が懸念される。気象情報に十分注意し収穫や貯蔵を行う。</p> <p>ア 施肥、土壌管理            果実の安定生産には、葉数や細根量の確保が重要であり、堆肥等による適正な土づくりを心がけ樹勢を維持する。近年、生産資材価格の高騰等により、基本的な施肥管理ができていない園地が多くなっている。専門機関で実施されている土壌分析等を利用し、適正な施肥管理に努める。</p> <p>(ア) 苦土石灰等の施用            土壌分析結果に加え、夏季にホウ素欠症状が出るなど、明らかな酸性土壌の園は、苦土石灰等を施用し、好適 pH(5.5～6.3)に矯正する。</p> <p>(イ) 有機物施用による土壌の団粒化            果実品質を向上させ、樹勢を維持するには、細根の役割が大きい。このため、完熟した牛糞堆肥や敷きわら等を施用することで細根を増加させる。有機質を増やせば、土壌が団粒構造になり、保水力、保肥力や排水性なども改良され、樹勢維持、高品質果生産が期待できる (表 1)。</p> <p>表1 家畜ふん尿の施用 <span style="float: right;">愛媛県施肥基準</span></p> <table border="1" data-bbox="480 1697 1410 1951"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="480 1697 916 1771">種 類</th> <th data-bbox="916 1697 1075 1771">オガクズ牛ふん堆肥</th> <th data-bbox="1075 1697 1235 1771">オガクズ豚ふん堆肥</th> <th data-bbox="1235 1697 1410 1771">乾燥鶏ふん</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="480 1771 692 1816">項目</td> <td data-bbox="692 1771 916 1816"></td> <td data-bbox="916 1771 1075 1816">0.5%</td> <td data-bbox="1075 1771 1235 1816">1.0%</td> <td data-bbox="1235 1771 1410 1816">3.0%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1816 692 1861">窒素含有成分量</td> <td data-bbox="692 1816 916 1861"></td> <td data-bbox="916 1816 1075 1861">30%</td> <td data-bbox="1075 1816 1235 1861">70%</td> <td data-bbox="1235 1816 1410 1861">100%</td> </tr> <tr> <td data-bbox="480 1861 692 1906" rowspan="2">10a当たり施用量</td> <td data-bbox="692 1861 916 1906">温州ミカン</td> <td data-bbox="916 1861 1075 1906">2～3t</td> <td data-bbox="1075 1861 1235 1906">1t</td> <td data-bbox="1235 1861 1410 1906">200～300kg</td> </tr> <tr> <td data-bbox="692 1906 916 1951">中晩生カンキツ</td> <td data-bbox="916 1906 1075 1951">3～4t</td> <td data-bbox="1075 1906 1235 1951">1～2t</td> <td data-bbox="1235 1906 1410 1951">250～350kg</td> </tr> </tbody> </table>	種 類		オガクズ牛ふん堆肥	オガクズ豚ふん堆肥	乾燥鶏ふん	項目		0.5%	1.0%	3.0%	窒素含有成分量		30%	70%	100%	10a当たり施用量	温州ミカン	2～3t	1t	200～300kg	中晩生カンキツ	3～4t	1～2t	250～350kg
	種 類		オガクズ牛ふん堆肥	オガクズ豚ふん堆肥	乾燥鶏ふん																				
項目		0.5%	1.0%	3.0%																					
窒素含有成分量		30%	70%	100%																					
10a当たり施用量	温州ミカン	2～3t	1t	200～300kg																					
	中晩生カンキツ	3～4t	1～2t	250～350kg																					

項 目	作 業 内 容
<p>(2) 晩柑類の収穫</p> <p>(3) 伊予柑・不知火の貯蔵</p>	<p>イ 防寒対策</p> <p>春先の寒風害による落葉は翌シーズンの果実生産に大きく影響を与える。温州ミカンでは最大風速 7 m/s を越えると落葉が急激に増加し、特に、気温が低いほど助長されるので、防風ネット、防風垣を整備し予防を心がける。</p> <p>晩柑類（甘夏、清見、せとか等）の収穫にあたっては、糖度、クエン酸のチェックを行い、当該地域の採収基準に達してから行うこと。遅くまで樹上におくほど食味は向上するが、寒害を受ける恐れがある場合は収穫を早める。</p> <p>伊予柑は適正入庫量（0.8～1.0t/3.3 m<sup>2</sup>）を守る。庫内が高温・多湿になるとへた落ち、軸腐病、黒腐病が増える。このため貯蔵中は、外気温に近い壁や天井部分が結露しないように換気を行うとともに、扇風機や簡易空調機（トイレファン）などで庫内空気を循環させ過湿対策を講じる。なお、3 L以上の果実はス上がりしやすいので各農協や各地区出荷計画に従い早めに出荷する。</p> <p>不知火の予措は、風通しの良い倉庫の軒下や開放した貯蔵庫で、3～5%を目安に行う。貯蔵形態には新聞包装、ポリ個装などがある。酸の高いものについては、ポリ個装を行い貯蔵期間を長くして減酸を図る（写真1、2）。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div data-bbox="478 1415 879 1706" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="948 1415 1342 1706" data-label="Image"> </div> </div> <p>写真1 不知火の新聞包装</p> <p>写真2 不知火のポリ個装</p>

項 目	作 業 内 容																				
( 4 ) 間伐・縮伐	<p>間伐・縮伐を行い、独立樹とし、作業性を改善するとともにマルチ栽培を導入しやすい園地作りに努める。独立樹の園地は、収量変動が 20% 以内で連年安定した生産量をあげている。密植では受光率が悪く、果実肥大と糖集積が劣り、着色遅延、病害虫也多発し、作業効率が悪い。樹間を通り難くなったら、間伐・縮伐が必要である。</p>  <p>写真 3 間伐した園地</p>																				
( 5 ) 土壌管理	<p>高品質安定生産の基本は土づくりである。近年は、価格低迷や労力不足により土づくりがおろそかになっている園地が多い。高品質果を安定生産するために、有機物（堆肥、敷きわら等）を投入し、細根の成長の良い、通気性・保水性・保肥力のある土壌に改善する。酸性化した園地は、微量元素欠乏症や過剰障害などが起こりやすいので、表 2 を参考に好適 pH に矯正する。</p> <p>表 2 果樹の好適 pH</p> <table border="1" data-bbox="943 824 1382 1326"> <thead> <tr> <th>種 類</th> <th>好適 pH</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カンキツ</td> <td>5.5 ~ 6.3</td> </tr> <tr> <td>ビワ</td> <td>5.2 ~ 6.1</td> </tr> <tr> <td>カキ</td> <td>5.5 ~ 6.1</td> </tr> <tr> <td>モモ</td> <td>4.9 ~ 5.2</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>6.0 ~ 7.0</td> </tr> <tr> <td>クリ</td> <td>4.5 ~ 5.5</td> </tr> <tr> <td>ナシ</td> <td>5.2 ~ 6.1</td> </tr> <tr> <td>キウイフルーツ</td> <td>6.0 ~ 7.0</td> </tr> <tr> <td>イチジク</td> <td>6.5 ~ 7.0</td> </tr> </tbody> </table>	種 類	好適 pH	カンキツ	5.5 ~ 6.3	ビワ	5.2 ~ 6.1	カキ	5.5 ~ 6.1	モモ	4.9 ~ 5.2	ブドウ	6.0 ~ 7.0	クリ	4.5 ~ 5.5	ナシ	5.2 ~ 6.1	キウイフルーツ	6.0 ~ 7.0	イチジク	6.5 ~ 7.0
種 類	好適 pH																				
カンキツ	5.5 ~ 6.3																				
ビワ	5.2 ~ 6.1																				
カキ	5.5 ~ 6.1																				
モモ	4.9 ~ 5.2																				
ブドウ	6.0 ~ 7.0																				
クリ	4.5 ~ 5.5																				
ナシ	5.2 ~ 6.1																				
キウイフルーツ	6.0 ~ 7.0																				
イチジク	6.5 ~ 7.0																				
( 6 ) 越冬病害虫防除	<p>越冬害虫（ミカンハダニ、カイガラムシ類）は増加傾向にあり、1月にマシン油乳剤（95%）を散布できなかった園地では、発芽前までに必ず散布する。</p> <p>また、昨年の長雨で、かいよう病に弱い品種では罹病葉が散見される。周年防除（耕種防除・薬剤散布）で発生を防ぎ、防風対策を充実させるとともに発病枝・葉は常に除去する。冬期に出来る限り病原菌密度を低下させておくことが大切である。</p>																				

（作成 果樹研究センター）